



綴プロジェクト作品 さくらびょうぶ 桜図屏風

伝 俵屋宗達 筆 寄贈先：東京都美術館 原本所蔵：米国ワシントンDCフリーア美術館

Facsimiles of works in the collection of the Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC. Gift of Charles Lang Freer, F1903.101, F1903.102



詳細は、公式サイト  
でご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品38作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。

**Canon**

キヤノン株式会社 〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2 [global.canon](http://global.canon)

帰ってきた日本の文化財  
綴プロジェクト作品（高精細複製品）  
『桜図屏風』 伝 俵屋宗達 筆

Vol.18

繊細かつ大胆で華やか、琳派が描いた花見。  
左隻では貴族の女性たちが優雅に花見を楽しみ、右隻には主人を待つ従者たち。源氏物語など王朝文学の「コマ」であろうか。「桜図屏風」は江戸時代初期に登場した琳派の祖・俵屋宗達の工房で描かれたと考えられる画面全体を華やかな金と緑で大胆に区切った平面的な構図。しかし、繊細な筆遣いで桜の花や枝、人物の表情を描き、物語の世界を鮮やかに再現している。戦乱の世が終わり、美を愛でる余裕を取り戻した人々の美意識に応える、逸品である。

原本は、米国ワシントンDCのフリーア美術館に所蔵。二〇世紀初頭にアメリカに渡った作品が、綴プロジェクトの高精細複製品として里帰りました。アメリカで展示されるたびに人々の関心を集める作品ですが、門外不出のため、日本では高精細複製品でしか見ることができません。世界に愛される日本の美を、日本の方々にも味わっていただきたいと思えます。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

綴TSUZURI  
文化財未来継承プロジェクト